

令和 4 年度	気管		クロアカ	
	陽性検体数	検査数	陽性検体数	検査数
鶏	734 (10.0)	901 (12.3)	608 (9.3)	804 (12.3)
	81%		76%	
鶏以外の家きん	80 (6.7)	128 (10.7)	41 (3.4)	128 (10.7)
	63%		32%	
合計	814 (9.6)	1029 (12.1)	649 (8.4)	932 (12.1)
	79%		70%	

※ () 内の数値は 1 事例当たりの平均検体数（現行の指針では13羽（死亡鶏11羽・生鶏2羽）で検査を実施）

※気管のみを検査し、クロアカの検査をしなかった事例： 8 事例

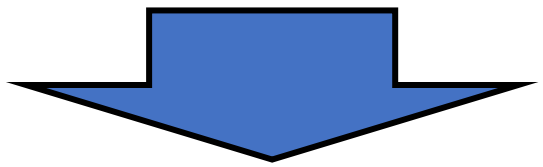
※気管から検出されず、クロアカからのみ検出された事例： 1 事例（あひる（あいがも））気管0/10、クロアカ1/10

令和 5 年度	気管		クロアカ	
	陽性検体数	検査数	陽性検体数	検査数
鶏	93 (8.4)	129 (11.7)	82 (7.4)	129 (11.7)
	72%		64%	

※ () 内の数値は 1 事例当たりの平均検体数（現行の指針では13羽（死亡鶏11羽・生鶏2羽）で検査を実施）

< 現行指針 >

- ・簡易検査で陽性となる死亡家きんが25%いることを前提に
これを95%以上の確率で検出できる羽数として、「11羽」を設定
- ・生きた家きんについては、少なくとも「2羽」を設定
- ・1羽につき気管スワブ及びクロアカスワブのそれぞれを 1 検体として実施



< 改正案 >

- ・簡易検査で陽性となる死亡家きんが**30%**いることを前提に
これを95%以上の確率で検出できる羽数として、「**8羽**」を設定
- ・生きた家きんについては、少なくとも「2羽」を設定
- ・**鶏については、1羽につき気管スワブを 1 検体として実施**
鶏以外の家きんについては、気管スワブ及びクロアカスワブのそれぞれを 1 検体として実施